

バスハイク”房総 御宿ぐるり旅”が開催されました 海の花祭りや童謡、歴史、イチゴと充実の一日

2月23日、恒例のバスハイクが開催されました。行き先は南房総の御宿です。タイや中国などの外国人8名を含む総勢39名で、にぎやかに出かけました。

当日はカラッと快晴。風もなくポカポカ。空も海も真っ青です。

ラッキーなことに、この日は一日だけの「おんじゆく海の花祭り」の開催日でした。会場の「月の砂漠記念館前広場」には、地元の魚介類や野菜、花などの出店が並び、さまざまな楽しいイベントが繰り広げられていました。

私達も早速参加しました。郷土料理の「するもん汁」（イワシのつみれ汁）は無料配布ですがおいしく、体もホツと温まりました。行列もなんのその、3杯も楽しんだ参加者もいました。95キロもの大きなカジキマグロの解体ショーはダイナミック。目で楽しんだ後は、解体されたマグロの刺身の無料配布に並び、新鮮な味を楽しみました。魚や野菜などの賞品がもらえる「ボール投げゲーム」は参加費500円。元手がかかっているのみなさん真剣(?)。鉢植えのパンジーや野菜、蜂蜜などを当てて「やったー!」と喜ぶ人もいれば、ボールペンとフランクフルトソーセージしか当てられず、「うーン、悔し〜!」と残念がる人もいました。参加者には全員スプレーストックの花束が渡され、ハッピーな気分になりました。その他、「エコ米つかみ取り」や、そ

ば打ち実演販売など、盛りだくさんで回るのに忙しいくらい楽しいひとときでした。

御宿といえば童謡「月の砂漠」で知られています。お祭り会場のある「月の砂漠記念館」も訪れて、「月の砂漠」が御宿海岸をモチーフに作られたことや、作詞者で御宿を愛した詩人・加藤まさる氏についてなど、いろいろ学びました。そして、海岸に立つ、王子と王女を乗せた2頭のラクダの「月の砂漠記念像」周辺をぶらぶらと散策しました。

その後「日・西・墨（日本・スペイン・メキシコ）三国交通発祥記念之碑」へ。1609年、フィリピンからメキシコへ向かったスペインの船が、岩和田海岸（御宿町）沖で遭難。漂着したスペイン人達を村人総出で助けたことを記念して建立された碑です。当時の岩和田は貧しい村で人口約300人。漂着者は300人以上。初めて見る異国人に驚きながらも、村人達は大切な着物や乏しい食べ物を分け与え、介抱したそうです。国際交流とは何かなどと構えなくても、江戸時代の一漁村の人々の行いは、私達にいろいろなことを教えてくれるのではないのでしょうか。

さらに「歴史民俗資料館」を見学。最後にイチゴ園を訪れてイチゴ摘み。甘〜いイチゴをお土産に、みなさんニコニコ顔で帰路につきました。（報告 佐藤洋子）



月の砂漠記念像前で



日・西・墨三国交通発祥記念之碑前で

95キロのカジキマグロ